

# 先進図書館見学記 葛飾区立中央図書館

### 図書館の概要

平成21年10月に東京都葛飾区に新しい図書館がオープンしました。

昭和41年に建設された旧中央図書館は老朽化が進み、平成15年2月に『葛飾区実施計画及び葛飾区立図書館基本計画』に「図書館サービスの拡充・IT化への対応を進めるための新しい情報通信技術を備えた施設」を目標とした新中央図書館の整備計画が組み込まれました。

新図書館は葛飾区の駅前再開発保留床を活用し、商業ビルの3Fワンフロアを全て使用したものとなっています。



建物全景



図書館入口

### 図書館の特徴

図書館は約5,000平米ワンフロアのゆとりある空間構成を活かした広々とした施設です。

また駅前という立地と利用者の利便性を考え、月曜～土曜日の開館時間を従来の20時から22時まで延長しました。

館内にはテーブル席・グループ席・一人用席・スツールなど、約450の閲覧席

を用意し、利用者の目的に合わせて活用できるようになっています。

また、子どもからお年寄り、障害を持った人も全ての人が同じように利用できるユニバーサルデザインの施設になっています。



子どもコーナー

### 図書館サービス

#### (1) ICタグの利用

全資料にICタグをつけ、7台の自動貸出機による貸出ができます。また予約資料コーナーを別途設け、職員を通さなくても利用者自身で予約資料を借りることが可能になっています。葛飾区も富山市と同様に複数の図書館窓口を有するため、自動返却機にはベルトコンベアによる仕分け機能がついています。



予約資料コーナー



自動返却仕分け機

## (2) ビジネス支援

座席予約端末で、データベースが利用できるビジネスパソコンや、個人閲覧席の予約が可能です。他にも研究個室や、グループ研究室が用意されています。



座席予約端末「せきなび」



個人閲覧席 (42 席)

## (3) ハンディキャップサービス

IC タグを活用した音声対応の資料検索機その他、音声パソコンや、拡大読書機も用意されています。



音声読上げ資料検索機

## 基礎データ

奉仕人口	430,697 人
複単別	複合施設 (他に商業施設・住宅)
延床面積	5,077 m <sup>2</sup>
蔵書数	一般書 195,000 冊 児童書 27,000 冊
収蔵能力	開架 200,000 冊 閉架 200,000 冊
閲覧席	450 席
雑誌	430 タイトル
新聞	35 紙
駐車場	なし (同ビル内に有料の公共駐車場 256 台分あり)



(本館 新保)

郷土資料コーナー

# 図書館をめぐる動き ~著作権法~

平成 21 年 6 月に、著作権法の一部を改正する法律が公布され、22 年 1 月に施行されました。今回の改正の概要は、次の 3 点です。

1. インターネット等を活用した著作物利用の円滑化を図る
2. 違法な著作物の流通抑止
3. 障害者の情報利用の機会確保

特に図書館に関わりが深い改正点として次の 2 点をご紹介します。

### (1) 国立国会図書館における所蔵資料の電子化

改正前は、損傷や劣化した資料を保存する時しか電子化はできませんでした。今後は、納本後直ちに電子化できるため

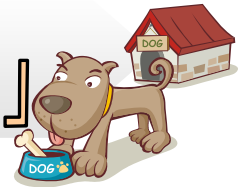
出版物を文化的遺産として保存し、将来の世代に引き継ぐことが可能です。

### (2) 障害者の情報利用の機会確保

富山市立図書館では、視覚障害者向けに、活字資料から音声資料へと訳した、録音図書 (カセットテープ) やデジタル録音図書 (デイジー図書) を作成しています。これまで点字図書館以外の施設で作成する場合は、作品の著作権者への許諾申請が必要でした。これからは、公共図書館でも申請せずに作成することが可能になります。視覚障害をもつ方々に、より多くの情報を迅速に提供できるようになりました。

(岩瀬分館 清川)

# いちおしライフライナー「人と犬」



犬は私たち人間にとってたいへん身近な動物です。人と犬との関わりの歴史はとても古く、太古の昔までさかのぼるといわれます。

現代では、犬は単なるペットではなく家族やパートナーとして、私たちの生活に大きな位置を占めるようになってきました。

犬に関する本は、その生態や飼い方などの実用書も多くありますが、今回は人との関わりを描いた本を紹介します。



「愛犬王 平岩米吉伝」  
片野 ゆか／著  
小学館 2006

昭和初期、東京自由が丘の自宅に犬や狼、ハイエナなどを飼い、その行動、生態を観察した動物研究家がありました。名前は「平岩米吉」。生涯に、六十頭を超える犬と暮らし、犬たちに深い愛情をそそぐと共に「動物行動学」という新しい研究分野を確立していきます。寝食を共にし、観察することで生まれた「犬は笑うのか」という考察は、飼い犬リリの笑った写真と共に、発表当時大きな話題になりました。

また、『動物文学』という雑誌を発行し、新しい文学分野の開拓にも取り組みました。彼が目指したのは、事実に基づいた科学的視点と愛情や情緒を表現する文学的視点を融合した新しい文学でした。晩年、自身の歌集『犬の歌』を発行しその形を残しています。

多くの犬たちを心から愛し、多くの犬たちに深く愛された研究家の生涯を描いた一冊です。



「犬と人のいる文学誌」  
小山 慶太／著  
中央公論社 2009

夏目漱石といえば「猫」をイメージしますが、意外に犬好きだったという一面は知られていないように思います。本書第一章では、漱石の作品を通して飼い犬に対する文豪のまなざしを紹介しています。

このほかに、「犬を語ることは彼らと生活を共にする人間を語ること」という視点から、純文学、エンターテインメント小説、随筆、ノンフィクションなど幅広いジャンルの作品を多数取り上げています。犬がでてくる作品を読みたい人にぴったりの読書ガイドともいえます。



「君と一緒に生きよう」  
森 絵都／著  
毎日新聞社 2009

「もしいつかあなたが犬を飼うなら、行き場のない犬の里親になってあげて」。知人のこの一言をきっかけに、インターネットで犬の里親サイトを見るようになった著者。ある犬との出会いから、犬と暮らす喜びや厳しさなど様々な問題を考えるようになります。里親との出会いから生まれた幸せを描くと共に、ペットブームの影で起きている現状も伝わってきます。

新聞に掲載したものに、イラストコラムや登場した犬の写真などを加え、わかりやすく親しみある内容にまとめられています。  
(本館 田中)

# 図書館資料いろいろシルクロードコレクション編

シルクロードコレクションは平成 16 年 12 月に高林和子氏から寄託されました。

## 高林和子氏プロフィール

歌人。昭和 6 年富山市生まれ。昭和 43 年より、短歌雑誌「コスモス」同人。故宮柗二に師事。昭和 59 年「コスモス随筆賞」、63 年「〇先生賞」をそれぞれ受賞。昭和 50～57 年「コスモス」富山支部代表。トルコ・イスタンブールから中国・西安に至るシルクロードを幾度も旅し、4 つのシルクロード（天山北路、天山南路、天山古道、西域南道）を踏破、新疆ウイグル自治区の全域も踏査しました。富山市在住。

## コレクション紹介

シルクロードに関する図書や雑誌、地図、写真の他に、高林氏が現地で収集した壁飾りや布製品などの民芸品、タクラマカン砂漠の砂や化石類からなっています。

(本館 尾屋)



## レファレンスあれこれ

今回は婦中に関する質問をご紹介します

Q. 婦中町音川地区にある猫坂峠について場所や言い伝えなどを知りたい。

A. 『富山県大百科事典』(富山新聞社 1976)によると、この峠は婦中町の高塚、平等、吉谷からの山道が一致する標高 130m の所にあり、関所があった地です。猫坂とは平等と池田の猫がこの峠であいびきをしたという言い伝えから名付けられたそうです。

また、『婦中町史 通史編』(1996)の[町と村の生活]の章にも同様の記述があり、『北陸の峠』(チューエツ 1999)には“加賀藩と富山藩の境であった峠”として、歴史についてわかりやすくまとめてあり、峠への交通も簡単な地図とともに紹介してあります。



Q. 「長沢防空監視哨」はどこに置かれていたか知りたい。

A. 『富山県史 通史編 6 近代 下』の[不況と戦争の中の県民生活]の章に“防空監視体制”の項目があり、富山と高岡の監視隊本部と 26 の監視哨により防空監視が行われたことが詳しく記載されていましたが、場所についての記述はありませんでした。

『富山県消防沿革史』(1955)には監視哨配置一覧表がありましたが、長沢の監視哨は出ていませんでした。『婦中町史』(1967)の[町の保安]の章には“長沢防空監視哨”について記述があり、哨所の位置として婦負郡古里村長沢各願寺境内と記されていました。(婦中 高田)